

# 立憲代表選 焦点はグループ

## 議員約140人で「推薦20人」必要 立候補へ壁

### 10近く存在 ■結束力には濃淡

立憲民主党の枝野幸男代表の後任を決める代表選では、立候補するために国会議員の推薦人20人を集める必要がある。衆参で約140人規模の立憲にとって、推薦人のハードルは高い。自民党のような派閥はないものの、政策や考えの近い議員が複数のグループを作っている。そのグループが、どう動くかも焦点となりそうだ。

福山哲郎幹事長は5日、党参院議員総会で「できれば（補正予算案を審議する）臨時国会開会までに代表選の立候補には国会

表選は終えたい」と話し、12月初旬までには新代表を決める考えを示した。



国会議員の概数	代表者
サンクチュアリ 26人	近藤昭一 党企業・団体交流委員長
新政権研究会 20人台半ば	泉健太 党政調会長
国のかたち研究会 16人	菅直人 元首相
直諫の会 11人	重徳和彦 党副幹事長
小沢グループ 10人	小沢一郎 元民主党代表
花斉会 10人	野田佳彦 元首相
自誓会 6人	幹事: 階猛 元総務政務官
小勝会 10~15人	岡田克也 党常任顧問
凌雲会 10人	前原誠司 国民民主党代表代行
一丸の会 40人 (元職も含む)	馬淵澄夫 元国土交通相

立憲民主党の主なグループ 1人で複数のグループを掛け持つ場合もある

乱 -2021- 野党の行方

議員の推薦人20人が必要で、党内では「立候補できるのは2、3人まで」（幹部）との見方が強い。推薦人確保のため、グループの動向が注目されている。この日は国会内で複数のグループが会合を持った。菅直人元首相が率いる「国のかたち研究会」では、菅氏が「長い政治経験の中でもなかなか難しい状況。新執行部をどう選ぶか、相当考えないといけない」とあいさつ。会合では、女性候補を求める意見が複数出たという。

立憲内には民主党時代から続く野田佳彦元首相や小沢一郎元民主党代表らが率いるグループのほか、旧維新の党出身の若手議員が中心の「直諫の会」など、10

近いグループがある。週1程度頻度で集まり、意見交換の場を持つ。自民党の派閥と違い、他グループとの掛け持ちが可能な場合が多く、結束の強さにも濃淡がある。

昨年9月に旧立憲と国民民主党の一部などが合流した際の代表選で、枝野氏と戦った泉健太政調会長は今春、「新政権研究会」を立ち上げた。20人台半ばが参加し、自前のグループで推薦人を確保できるのが

### 「サンクチュアリ」影響力も

グループのなかでも最も動向が注目されるのは、2017年に立憲の結党を支えた「サンクチュアリ」だ。旧社会党書記長などを歴任した赤松広隆前衆院副議長が率いてきた党内最大グループで、支持団体・連合の組織内候補が多く所属し、党員票にも一定の影響があるからだ。

5日に国会内で開いた会合では、辞任を表明した枝野氏の入会が承認された。立憲の創設者である枝野氏が入ったことで、同グループの存在感がより高まる可能性がある。代表選の対応については「固まって関わっていない」と確認した。

同グループは、野党共闘を進めた枝野執行部の路線の継続を重視している。所属する小川氏や逢坂誠三元政調会長の支援を検討しており、赤松氏が小川氏と会談して意向を確認する考えだ。赤松氏は周辺に「今回はフレッシュな人の方が良い」という雰囲気だ」と語っているという。

(小泉浩樹、神沢和敬)